

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-3 農林水産業の担い手の確保・育成
---------	-------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農業経営課長 栗原 一郎	電話番号	0852-22-5392
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	新規就農者等育成確保推進事業		
目的	(1) 対象	就農希望者（自営、雇用）	
	(2) 意図	厳しい経済情勢と農林水産業への就業志向者が増える中で、県内外から就業者を確保し将来の担い手を育成確保する。	
事業概要	1. 新規就農者育成確保推進事業 新規就農者の確保のため、PRや就業プランナーの設置、自営就農者、半農半X実践者への支援等を行う。 2. しまね農業人材育成事業 新規就農者の育成や地域リーダー候補の養成までそれぞれの段階に応じた「しまねアグリビジネス実践スクール」を実施する。 3. 企業の農業参入支援事業 新規就農先の拡大に向け、資本金や経営力のある企業の農業参入を促進する。 4. 農業高校地域連携推進事業 農業高校生等について、将来の職業としての農業への関心を高め、地域の担い手として就農するまでの対策を推進する。		

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	新規就農者数	年度					単位
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
式・定義	新規就農者数（自営就農者＋半農半X実践者＋雇用就農者）	目標値		170	170	170	170	人
		実績値	120	125	161	171		
		達成率		73.50	94.70	100.60		
指標名			年度					単位
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
			目標値					
式・定義			実績値					%
			達成率					

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)		246,782
うち一般財源(千円)		246,782

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

新規就農者が単年度では目標である170人を超え、過去最高の確保数となった。また、このうちUターン者数も57人と過去最高となり、就農相談から就農までの一連の施策の効果は出てきている。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

就業相談プランナーの設置による就農相談活動から就農後のスキルアップまで幅広い新規就農者支援を展開することができた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

単年度では170人の新規就農者の確保目標を初めて達成することができたが、依然農業の担い手不足は続いている。また、新規就農者の増加に対応した就業支援体制が必要になってきている。

### ②困っている状況が発生している「原因」

担い手不足については、農業従事者の高齢化と、持続的な新規就農者な確保ができていないことが原因。就業支援体制については、平成25年度から新規就農者が急増しており、これに対応した技術・経営等の指導が求められている。

### ③原因を解消するための「課題」

担い手不足に対しては持続的に年間170人の新規就農者を確保する体制づくりが必要。新規就農者の増加については、技術・経営指導といった就業後のフォローアップを関係機関が一体となって総合的に行う体制づくりが課題となっている。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

持続的に年間170人の新規就農者を確保する体制づくりが必要。そのために、農業高校との連携、就業相談の強化や、自営就農や雇用就農だけにとどまらず半農半Xや企業参入といった多様な担い手の確保も一層強化する必要がある。また、就業後の各ステージに必要な知識を習得するためのカリキュラムの充実も図るとともに、地域再生協議会が中心となって、技術・経営指導といった就業後のフォローアップも効率的・効果的に行う体制づくりにも取り組む。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）